

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局



(43) 国際公開日
2002 年 3 月 14 日 (14.03.2002)

PCT

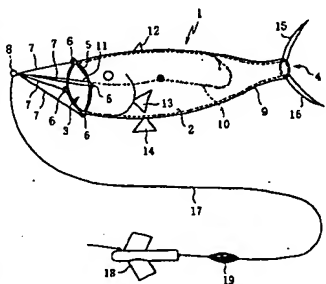
(10) 国際公開番号
WO 02/19815 A1

- (51) 国際特許分類⁷: A01K 85/00 (74) 代理人: 江原省吾, 外(EHARA, Syogo et al.); 〒550-0002 大阪府大阪市西区江戸堀1丁目15番26号 江原特許事務所 Osaka (JP).
- (21) 国際出願番号: PCT/JP01/07820
- (22) 国際出願日: 2001 年 9 月 10 日 (10.09.2001) (81) 指定国 (国内): AE, AG, AL, AM, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BR, BY, BZ, CA, CH, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DK, DM, DZ, EC, EE, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, HR, HU, ID, IL, IN, IS, JP, KE, KG, KP, KR, KZ, LC, LK, LR, LS, LT, LU, LV, MA, MD, MG, MK, MN, MW, MX, MZ, NO, NZ, PH, PL, PT, RO, RU, SD, SE, SG, SI, SK, SL, TJ, TM, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VN, YU, ZA, ZW.
- (25) 国際出願の言語: 日本語
- (26) 国際公開の言語: 日本語
- (30) 優先権データ:
特願2000-273783 2000 年 9 月 8 日 (08.09.2000) JP
- (71) 出願人 および
(72) 発明者: 小川陽一郎 (OGAWA, Yoichiro) [JP/JP]; 〒470-0116 愛知県日進市東山6丁目1213 Aichi (JP).
- (84) 指定国 (広域): ARIPO 特許 (GH, GM, KE, LS, MW, MZ, SD, SL, SZ, TZ, UG, ZW), ユーラシア特許 (AM, AZ, BY, KG, KZ, MD, RU, TJ, TM), ヨーロッパ特許 (AT, BE, CH, CY, DE, DK, ES, FI, FR, GB, GR, IE, IT,

[続葉有]

(54) Title: LURE

(54) 発明の名称: ルアー



(57) 要約:

(57) Abstract: A lure (1) provided with a through-hole longitudinally penetrating through a lure body (2) to deliver an irregular movement by a simple operation. A cloth-made lure body (2) is formed by sewing up pieces of cloth into a tubular shape and by printing a fish-intimated pattern on the outer peripheral surface thereof, and a water-passing through-hole is formed to extend from an opening (3) in the mouth of the lure body (2) to an opening (4) in the tail fin of the body (2), thereby providing a large, light lure having a small resistance because of water flowing through the through-hole and being not likely to easily float on the sea when used especially for trawling. A metal ring (5) may be attached along the opening (3) in the mouth of the body (2). In addition, the number of through-holes and the number, sizes and directions of openings (3, 4) at a through-hole may be changed freely.

本発明のルアー1は、ルアー本体2に前後に貫通する貫通穴を設けたものであり、簡単な操作で不規則な動きを演出することができる。また、布を管状に縫い合わせ、外周面に魚を模した図柄を印刷して布製のルアー本体2を形成し、ルアー本体2の口部分の開口3からルアー本体2の尾びれ部分の開口4に向けて水が通る貫通穴を形成したものは、貫通穴に水が流れるのでルアーの抵抗が少なく、大型で軽いルアーを実現でき、特にトローリングで使用しても海上に浮上し難い。ルアー本体2の口部分の開口3に沿って金属製のリング5を装着してもよい、また、ルアー本体2の貫通穴の数や貫通穴の開口3, 4の数、大きさ、開口の向きを自由に変更してもよい。

WO 02/19815 A1



LU, MC, NL, PT, SE, TR), OAPI 特許 (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

2文字コード及び他の略語については、定期発行される各PCTガゼットの巻頭に掲載されている「コードと略語のガイダンスノート」を参照。

添付公開書類:

— 国際調査報告書

明細書

ルアー

発明の背景

本発明は魚釣りに使用するルアーに関するものである。

ルアー（擬似餌）は、淡水に生息するブラックバス、イトウ、ニジマスを対象にした比較的小型のものから、シーバス、シイラなどの海水魚を対象にしたやや大型のもの、また、海洋において船でルアーを引張る大型のトローリング用のものまで幅広くある。

ルアーは小魚を模したプラグ、小魚が鱗をきらめかす様を模したスプーンやスピナー、ザリガニやえびなどの水性小動物を模したワーム、海中を泳ぐイカを模したものなどが普及している。

このうちプラグタイプのルアーはバルサ材など比重の軽い木材で作ったものや、合成樹脂で形成した左右一对のルアー外表体を貼り合わせたものがあり、内部にバランスを調整するために錘を配設したり、音を発生させるためにラトルを入れたり、ルアーの比重を水よりも重くしてルアーが水中に沈むようにしたり、リップと呼ばれる潜行板をルアーの前部に設けてラインを勢いよく引くと潜行板に水圧を受けてルアーが潜るようにしたり、リップに受ける水圧を利用してルアーの後部が左右に振れ動くようにしたものがある。

ルアーで釣りをする場合、水中であたかも魚が泳いでいるようにルアーを動かす必要があるため、釣り人は竿、リール並びに身体を使いルアーに動きを加えようとする。しかしながら、従来のルアーは釣り人が単にルアーを引張るだけでは単純な動きしかしないので、ルアー釣りの対象魚であるフィッシュイーター（魚を捕食する魚）が興味を示すようにルアーを動かすためには、相当の熟練が必要である。

また、釣り人は魚が興味を示すような複雑な動きをルアーに与えようとリールを巻く速度に強弱を付けたり、竿を上下左右に動かしながらルアーを引くことを強いられる。これらの一連の動作を続けることはかなりの重労働である。

また、大型魚を対象魚とするルアー釣りの場合は、大型ルアーを用いるが、ルアー本体が大きいと、ルアー本体が重くなり持ち運びが不便であるばかりか水の抵抗が大きくなるため、竿、リール、道糸などの釣り道具を大型にする必要がある。これらの重い道具を使って前述の動作を行なうことは、釣り人にとって極めて至難である。このようなことから大型のルアーは釣りに適さないため製品化されていない。

またトローリング用では、ルアーを引く船の速度が速いために、ルアーが海面に浮上してしまい、表層を泳いでいる魚しか釣ることができない。また、ルアーを引く船の速度を遅くすると、カツオなど早く泳ぐ魚を追いかけて捕食するカジキマグロの反応が悪くなり、十分な釣果が得られない。

発明の要約

本発明の目的は、上記の問題点を解消すべく、釣り人が操作し易く、簡単な操作で不規則な動きを演出できる新しいタイプのルアーを提供するものである。本発明の他の目的は、船の速度が速い場合でも海上に浮上し難いトローリング用ルアーを提供することである。

上記の目的を達成するため、本発明は、ルアー本体に前後に貫通した貫通穴を有し、引航時にルアー本体の前側の開口から貫通穴に水を取り込みルアー本体の後側の開口から水を排出するものであり、水の抵抗が軽減されるとともに、貫通穴を通り抜ける水流により不規則な動きをするルアーを提供する。このルアーは、水の抵抗が少ないので釣り人が操り易く、釣り人の負担が軽減する。

上記構成において、本発明は、ルアー本体に形成した貫通穴の前側がルアー本体の前方に向けて開口し、貫通穴の後側がルアー本体の後方に向けて開口した構成にしてもよい。この構成によれば、ルアー本体を前後方向に真っ直ぐ水が通るため水中でのルアーの直進性が良くなり、また、ルアー本体の貫通穴を抜けた水が乱流になりルアー本体が小刻みに振れ動くようになる。

また、本発明は、ルアー本体に形成した貫通穴の前側がルアー本体の前方に向けて開口し、貫通穴の後側がルアー本体の後部上方に向けて開口した構成にしても良い。この構成によれば、ルアー本体の貫通穴を抜けた水がルアー本体の後部

上方に排出され、その水流によりルアー本体が不規則に上下に振れ動くようになる。

また、本発明は、ルアー本体に形成した貫通穴の前側がルアー本体の前方に向けて開口し、貫通穴の後側がルアー本体の後部下方に向けて開口した構成にしても良い。この構成によれば、ルアー本体の貫通穴を抜けた水がルアー本体の後部下方に排出され、その水流によりルアー本体が不規則に上下に振れ動くようになる。

また、本発明は、ルアー本体に形成した貫通穴の前側がルアー本体の前方に向けて開口し、貫通穴の後側がルアー本体の後部側方に向けて開口した構成にしても良い。この構成によれば、ルアー本体の貫通穴を抜けた水がルアー本体の側方に排出され、その水流によりルアー本体が不規則に左右に振れ動くようになる。

また、本発明は、ルアー本体に形成した貫通穴に潜行板を設けた構成にしても良い。この構成によれば、潜行板に当たる水圧を受けてルアーを潜らせたり、ルアー本体に不規則な動きをさせて魚を誘うことができる。

また、本発明は、ルアー本体に形成した貫通穴に水流によって回転するスクリューを設けた構成にしても良い。この構成によれば、スクリューの回転に伴う音により集魚効果があり、さらにスクリューの回転により乱流を発生させ、ルアー本体に不規則な動きをさせて魚を誘うことができる。

また、本発明は、ルアー本体に形成した貫通穴の前側の開口に、前方に向けて拡張したラッパ形状の吸水部材を取り付けた構成にしてもよい。このルアーによれば、ルアー本体の内部により多くの水が導入されてルアーが大きく動くようになるとともに、吸水部材が受ける水圧によりルアーが左右に振れ動くようになる。

また、本発明は、ルアー本体に形成した貫通穴の後側の開口に、排水部材を取り付けた構成にしてもよい。このルアーによれば、ルアー本体の内部に導入された水が排水部材を経て排出されるので、排水部材の形状によりルアーの動きを変えることができる。

また、本発明は、ルアー本体に形成した貫通穴の後側の開口に尾状体を取り付けた構成にしても良い。この構成によれば、貫通穴を抜けた水流により尾状体が大きく振れ動くので、魚を誘うことができる。

また、上記構成において、尾状体は、ルアー本体に形成した貫通穴の後側の開口に1又は複数取り付け付けたホースで構成することができる。このルアーは、ホースの中を通る水流により、ホースが複雑に動き、魚を誘うことができる。

また、本発明は、ルアー本体を、木材、ガラス、合成樹脂又は金属の何れかで、或いは、これらを複合して作成した一体型のルアーとし、ルアー本体に前後方向に貫通穴を形成した構成にすることができる。この構成によれば、ルアー本体の貫通穴を通る水により不規則な動きをさせることができ、特に、小型のルアーに好適である。

また、本発明は、ルアー本体を、シートを管状に繋ぎ合わせてその前側の開口に沿ってリング部材を装着した構成にすることができる。この構成によれば、ルアー本体内部を水が流れるので、ルアーの抵抗が少なくなる。このため軽い大型のルアーを作成するのに好適であり、特にトローリングで用いる場合でも、ルアーが海面に浮上しがたく、中層、深層でルアーを引くことができるルアーを提供することができる。このルアーによれば、トローリングで釣る棚が深い方に広がって釣果の向上が期待できる。なお、ここでいう「シート」には、布、ビニールシート、ゴムシートなどが例示でき、これらシート状の材料から適当なものを選択することができる。

また、上記構成において、本発明はルアー本体の内部にフックを内蔵した構成にしてもよい。この構成によれば、針の先端がルアーから出ていないので、魚が警戒心を持つことなくルアーを捕食するようになる。

また、本発明は、ルアー本体の外形をネットで形成したルアーを提供する。この構成によれば、ルアー本体内部を水が流れてルアーが不規則な動きをするとともに、ルアーの抵抗が少ないので、釣り人の負担が少なくなる。

また、上記の各構成において、本発明は、ルアー本体の外周面に変形自在な金属板を取り付けた構成にしても良い。この構成によれば、釣り人が適当に金属板を変形させることにより、ルアーの動きを変えることができる。

また、本発明は、ルアー本体の内部に前方が開口し後方が塞がれた空洞部を有し、前方の開口部から空洞部に取り込まれた水の水流により不規則に動くようにしたルアーを提供する。

また、上記構成において、本発明は、ルアー本体の外周面の複数の位置に通水穴を形成した構成にしてもよい。この構成によれば、ルアー本体に形成した通水穴から水が排出されるので、ルアーの抵抗を少なくすることができるとともに、穴から排出された水の乱流により不規則に動いて魚を誘うことができる。

また、上記構成において、本発明は、ルアー本体の後方に空洞部に連通するように形成した開口部と、開口部に着脱可能な第1栓部材とを有する構成にしてもよい。この構成によれば、釣り人が選択的に第1栓部材でルアー本体後方の開口部を開けたり塞いだりして、状況に応じてルアーの動きを変えることができる。

また、上記構成において、本発明は、ルアー本体の外周面の複数の位置に形成した通水穴に着脱可能な第2栓部材を有する構成にしても良い。この構成によれば、釣り人が選択的に第2栓部材でルアーの外周面に形成された穴を塞ぐことができ、状況に応じてルアーの動きを変えることができる。

また、上記構成において、第2栓部材は、通水穴に通すことが可能な棒状の抜け止め部材の中央部に釣り糸の一端を結び、釣り糸の他端に栓本体を結んだ構成にしても良い。この構成によれば、ルアーに魚がヒットした場合などの衝撃で栓本体が通水穴からはずれても、通水穴の内側に装着した抜け止め部材が引っ掛かり、栓本体が無くなることはない。

また、上記構成において、本発明は、通水穴に通すことが可能な棒状の抜け止め部材の中央部に釣り糸の一端を結び、釣り糸の他端に釣針を結んだ1又は複数の針部材を備えた構成にしても良い。この構成によれば、ルアー本体の任意の通水穴に任意数の針部材を取り付けることができる。

また、本発明は、ルアー本体の内部に前方が開口し後方が塞がれた空洞部、又は、ルアー本体に前後に貫通した貫通穴を有し、ルアー本体の外周面の複数の位置に前記空洞部又は貫通穴に貫通するように形成した第1通水穴と、ルアー本体の外周に周方向に摺動可能に配設した外郭体と、ルアー本体に形成した第1通水穴に対応させて外郭体に形成した第2通水穴とを備えたルアーを提供する。この構成によれば、釣り人が状況に応じて外郭体をルアー本体に対して周方向に摺動させることにより、ルアー本体の通水穴の開口の程度を調節してルアー本体の動きを変えることができる。

また、本発明は、ルアー本体に前後に貫通した貫通穴を形成し、貫通穴の内部に設けた係合部に誘魚手段を装着したルアーを提供する。この構成によれば、ルアー本体の内部を通る水流により誘魚手段が振れ動いて魚を誘うことができる。ここで、「誘魚手段」には、スカート、スピナー、及び、本物の魚を例示することができる。

また、本発明は、前後に貫通した貫通穴を有するルアー本体の一方の開口部に雌ねじ又は雄ねじを設け、かつ、他方の開口部に雄ねじ又は雌ねじを設けたルアーを提供する。この構成によれば、複数のルアー本体を前方の開口部と後方の開口部に形成したねじ構造で連結することができ、釣り人が対象とする魚に応じて連結するルアー本体の数を変えて、ルアーの長さを変えて使用することができる。

また、本発明は、前後に貫通した貫通穴を有する2以上のルアー本体を直列に配設し、前側のルアー本体に対して後側のルアー本体が振れ動くように連結したルアーを提供する。この構成によれば、後側のルアー本体が前側のルアー本体の貫通穴を通り抜けた水流を受けて、不規則に振れ動くようになる。

また、本発明は、ルアー本体の前後に貫通した貫通穴の内部に、周面に複数の排水口を有する筒体を収容するとともに、前記筒体の前方の開口をルアー本体の貫通穴の前方の開口に向けて拡張させて取り付け、かつ、前記筒体の後方の開口をルアー本体の周面に貫通させた穴に取り付けたルアーを提供する。この構成によれば、ルアーは、ルアー本体の前方の開口部に装着した筒体の前方の拡張部から筒体内に水が入るようになっており、筒体内に入ってきた水の一部は筒体の排水穴からルアー本体の貫通穴内に排出され、布製のルアー本体を膨らませるとともに、ルアー本体の内部を不規則に通り抜けてルアー本体を不規則に振れ動かすように作用する。

図面の簡単な説明

図1は、本発明の第1実施例に係るルアーの斜視図である。

図2は、本発明の第1実施例に係るルアーをトローリングで使用した状態を示す図である。

図3は、(a)は本発明の第2実施例に係るルアーの側面図であり、(b)は

(a) の a - a 断面図である。

図4は、貫通穴の前側の開口が前方に開口し、後側の開口が後方に開口したルーアの横断側面図である。

図5は、貫通穴の後側の開口が上方に開口したルーアの横断側面図である。

図6は、貫通穴の後側の開口が上方及び下方に分岐して開口したルーアの横断側面図である。

図7は、貫通穴の後側の開口がルーアの両側及び後方に分岐して開口したルーアの横断平面図である。

図8は、パイプ形状のルーア本体の内部に形成した貫通穴に潜行板を設けたルーアの斜視図である。

図9は、パイプ形状のルーア本体の内部に形成した貫通穴にスクリーンを設けたルーアの斜視図である。

図10は、貫通穴の後側の開口に尾状体を有するルーアの斜視図である。

図11は、貫通穴の後側の開口に複数のホースを取り付けたルーアの斜視図である。

図12は、ルーア本体の外形をネットで形成したルーアの斜視図である。

図13は、(a) は本発明の第7実施例に係るルーアの斜視図であり、(b) は本発明の第7実施例に係るルーアの変形例を示す斜視図である。

図14は、(a) 及び(b) はそれぞれ本発明の第7実施例に係るルーアの変形例を示す斜視図である。

図15は、(a) 及び(b) はそれぞれ本発明の第7実施例に係るルーアの変形例を示す斜視図である。

図16は、(a) は本発明の第7実施例の変形例に係るルーアの針の取り付け構造を示す斜視図であり、(b) は針の取り付け構造を拡大した断面図である。

図17は、(a) 及び(b) はそれぞれ本発明の第7実施例に係るルーアの変形例を示す斜視図である。

図18は、(a)、(b) 及び(c) はそれぞれ本発明の第8実施例に係るルーアを示す斜視図である。

図19は、本発明の第9実施例に係るルーアのルーア本体を示す斜視図である。

図20は、本発明の第9実施例に係るルアーの吸水部材及び排水部材を示す斜視図である。

図21は、本発明の第9実施例に係るルアーの他の連結構造を示す断面図である。

図22は、本発明の第10実施例に係るルアーを示す斜視図である。

好ましい実施例の記述

以下、本発明の実施例に係るルアーを図面に基づいて説明する。

第1実施例に係るルアー1は、図1に示すように、トローリングに適した大型のルアーで、布を管状に縫い合わせ、外周面に魚を模した図柄を印刷して布製のルアー本体2を形成し、ルアー本体2の口部分の開口3からルアー本体2の尾びれ部分の開口4に向けて水が通る貫通穴を形成したものである。

ルアー本体2の口部分の開口3には金属製のリング5が装着してある。リング5には、4つのライン取付部6が均等に配設してあり、各ライン取付部6に結んだライン7をスプリットリング8に結んで均等に引張ることにより、リング5がルアー1の進行方向に対して直交する状態に維持され、ルアー本体2の内部に水を導入することができる。

ルアー本体2の尾部分9は、胴部分から絞ってあり、魚の外形形状を模しているとともに、ルアー本体2の内部及び外部を流れる水流、及び、尾部分の開口4を抜けた水の後流に乱流を発生させて、ルアー本体2の尾部分9が揺れ動くようにしている。

ルアー1のフック10は、スプリットリング8に繫留した道糸11に取り付けてあり、ルアー本体2の内部に装着してある。このルアー1に魚が食い付くと、フック10の先端が布製のルアー本体2の中から出て魚に刺さるようになっている。

また、ルアー本体2の背びれ部12、胸びれ部13、腹びれ部14、尾びれ部15には、それぞれ魚の背びれ、胸びれ、腹びれ、尾びれを模した金属板が取り付けられている。各金属板12, 13, 14, 15は軽い力で曲げることができるようになっており、状況に応じて釣り人が適当に曲げてルアー1の動きを変えることができるようになっている。

このルアー1は布製であるため、大型のものでも軽量化を図ることができ、ま

たリング5とルアー本体2を分離すれば、ルアー本体2を折り畳むことができるので持ち運びにも便利である。このルアー1は大型のルアーを用いるトローリングに最適であり、図2に示すように、船16の後方から垂らしたライン17に潜行板18と錘19を取り付け、その先にルアー1を取り付けて使用することができる。このルアー1は、ルアー本体2内部に水が流れるので、水の抵抗が少ない。このため速い速度でルアーを引いてもルアー1が海面に浮上し難く海中を泳がせることができ、海中の中層、深層にルアーを通すことができる。これにより海中を泳いでいるカジキマグロにルアー1をアピールすることができて釣果の向上が期待できる。

次に第2実施例のルアー20を図3(a)(b)に基づいて説明する。

このルアー20は、第1実施例のルアー1(図1参照)のルアー本体2の口部分の開口3に、リング5に替えてラッパ形状の吸水部材21を取り付けたものである。

吸水部材21は、前方に向けて大きく広がった開口22を備え、ルアー本体23の内部の貫通穴により多くの水を導入するためのものである。吸水部材21の上部にはライン24を繫留するためのライン取付部25が設けてある。吸水部材21は、ルアー本体23の内部により多くの水を導入して、ルアー20をより深く潜らせたり、水の抵抗をより大きく受けてルアー20の動きを大きくさせるためのものである。なお、図3に示す吸水部材は、上側が長く延在しているが、逆に下側を長く延在させてもよい。

ルアー本体23の外表面には鱗模様26を印刷している。また、ルアー本体23の適当な位置に錘(図示省略)を付けてルアー20のバランスを調整している。このルアー20は、ルアー本体23の尾部分27に、後方に向けた開口28と下方に向けた開口29を有している。後方に向けた開口28は、後方に向けて広がっており、ルアー20の尾部分27から後方に抜け出る水に乱流を発生させて、ルアー20の尾部分27を大きく揺れ動かすものである。下方に設けた開口29はルアー20の下方に水が抜け出てルアー20の尾部分27を上下に振れ動かすものである。なお、各開口28、29は、上方又は側方に向けて開口させても良い。

このように、口部分の開口22の数、大きさ、開口の向き、及び、尾部分27の開口28、29の数、大きさ、開口の向きは、それぞれ自由に変更することができ、それによりルアー20の動きを変えることができる。

また、このルアー20は、ルアー本体23の上部に背びれを模した金属板30、31、32が設けてあり、下部に腹びれを模した金属板33、34、35が設けてある。これらの金属板30～35は、図3（b）に示すように、布36で覆った状態でルアー本体23に取り付けてある。金属板30～35は、それぞれ別体の金属板であり、それぞれ軽い力で曲げることができ、釣り人が適当に曲げることにより、ルアー20の動きを変えることができる。

次に第3実施例に係るルアーを図4～図7に基づいて説明する。

このルアー40は、木材又は合成樹脂材で作成した従来の一体型のルアーに前後方向に貫通する貫通穴41を設け、ルアー40の内部を前後方向に水が通るようにしたものである。このルアー40の貫通穴41は、前側の開口42が前方に向けて開口しており、後側の開口43が後方に向けて開口している。このルアー40は貫通穴41に水が通るので、簡単に不規則な動きを演出することができる。即ち、このルアー40は、貫通穴がルアーの進行方向に対して真っ直ぐに開いているので、進行方向に対する抵抗が少なく、竿を煽ったりリールを巻く速度を変えるルアー操作において釣り人に負担を与えず、また貫通穴41を抜ける水に乱流が発生してルアーが小刻みに振れ動くようになる。

同様に、図5に示すルアー50は、貫通穴51の後側の開口52を上方に開口させて、前側の開口53から入ってきた水をルアー50の後部から上方に排出して、ルアー50が上下方向に振れ動くようにしたものである。また、図6に示すルアー60は、後側の上方と下方に貫通穴61の2つの開口62、63を設けて、前側の開口64から入ってきた水がルアー60の後側から上下に抜けて、ルアー60が上下に不規則に振れ動くようにしたものである。また、横断面図で図示した図7に示すルアー70は、貫通穴71の後側に後方に向けて開口した開口72と、右側方に向けて開口した開口73と、左側方に向けて開口した開口74の3つの開口を設けてあり、前側の開口75から入ってきた水がルアーの後側から後方及び左右側方に抜けて、ルアー70が左右に不規則に振れ動くようにしたものである。

なお、図4～図6において、44はライン、45はライン44を取り付けるためのライン取付部、46はフック、47はルアーのバランスと取るための錘である。

図4～図7に示すルアー40、50、60、70は、貫通穴に水が流通し水の抵抗が少

なく浮上し難いので、例えば、流れのある河川において流れの中でルアーを泳がせることができ、鮎釣り、鮭・鱒釣りに使用することができる。

次に、パイプ形状のルアー本体の内部に貫通穴を設けた第4実施例に係るルアーを図8と図9に基づいて説明する。

図8に示すルアー80は、パイプ形状のルアー本体81の内部に形成した貫通穴82に、前側から後側に向かって上方に傾斜した潜行板83を設けたものである。ルアー本体81の下面には、ルアー80を水中で略水平な姿勢に保つための錘81aが取り付けられている。このルアー80を引くと、貫通穴81の前側の開口84から入ってくる水が潜行板83に当たって後側の開口85から抜ける。このとき潜行板83に水の抵抗を受けて、ルアー80は前側を下に向けながら潜るようになる。なお、潜行板83は貫通穴82の前側の開口84又は後側の開口85からはみ出して延在するものでも良い。潜行板83が貫通穴82の前側の開口84からはみ出して延在するものは、潜行板83により大きな水の抵抗を受けるので、より深くルアーを潜らせる効果がある。潜行板83が貫通穴82の後側の開口85からはみ出したものは、ルアー80の後方において水の抵抗を受けるので、ルアー80の後部が不規則に上下動するようになる。

このルアー80は、前側の上下に設けた2つのライン取付部86、87にライン88a、88bを結び、スプリットリング89でライン88a、88bを纏めてルアー80を前方に引くようにしている。これにより、ルアー80の貫通穴81に水が入り易いようにしている。

なお、外周面の上側にもライン取付部86a～86eが複数個設けてある。このライン取付部86a～86eは、一点鎖線で図示するように、釣り人が状況に応じて選択したライン取付部86a～86eにライン88cを結ぶようにしたものである。ルアー80を上側のライン取付部86a～86eに結ぶ場合、ルアー80の前側のライン取付部86aを選択すれば、ルアー80の傾き姿勢が緩やかになりルアー80が潜る深さを浅くすることができ、後側のライン取付部86b～86eを選択すれば、後のライン取付部を選択するほど、ルアー80を引いたときにルアー80の前側が下向きに傾いた姿勢になり、ルアー80がより深く潜るようになる。

次に、図9に示すルアー90は、パイプ形状のルアー本体91の内部に貫通穴92を形成し、貫通穴92の前側の開口93の近傍にスクリー94を取り付けるとともに、

外周面の左右両側に側方に向けて延在した潜行板95, 96を設けたものである。なお、ルアー90は下面に取り付けた錘により水中で略水平な姿勢を保つようにしてある。

スクリュー94は、貫通穴92を通る水流を受けて回転するようになっている。ルアー90はスクリュー94の回転に伴いスクリュー94が水を切る音が発生する。スクリュー94が発生させる音は集魚効果があり、このルアー90の釣果を向上させる作用がある。また、スクリュー94は貫通穴91を通る水に乱流を発生させる作用があり、ルアー90が不規則な動きをするようになる。スクリュー94を設ける位置は、貫通穴92の前側の開口93近傍に限定されず、貫通穴92の中央や後側の開口97近傍など任意の場所に設けることができる。また貫通穴92には、スクリュー94を複数個設けても良い。

また、潜行板95, 96は軽い力で変形させることができる金属板であり、釣り人が状況に応じて潜行板95, 96を押し曲げてルアー90の動きを調整するためのものである。例えば、潜行板95, 96の後方を押し下げれば潜行板95, 96に水圧を受けてルアー90が浮上するようになり、潜行板95, 96の後方を押し上げれば潜行板95, 96に水圧を受けてルアー90が潜るようになる。

次に、いかを模した第5実施例に係るルアーを図10と図11に基づいて説明する。

図10に示すルアー100は、パイプ形状のルアー本体101の内部に貫通穴102を形成し、貫通穴102の後側の開口103部分に、例えば、いかの足を模した布製の尾状体104を取り付けたものである。このルアー100は、貫通穴102を通った水流、及び、貫通穴102の外側を通る水流により尾状体104が大きく振れ動き、いかが泳ぐ様を演出することができる。なお、尾状体104は魚の尾びれ、えびの前足などを模したものでよい。

図11に示すルアー110は、貫通穴111を内部に備えたルアー本体部112と、貫通穴111の後側の開口113に複数のホース114を束ねた尾状体115を取り付けたものである。このルアー110は、貫通穴111を通る水が貫通穴111の後側の開口113から各ホース114の流路116を通り抜け、各ホース114を揺れ動かす。これにより、各ホース114が別個独立した複雑な動きをするようになり、よりリアルないかの動きを演出することができる。

なお、尾状体は、貫通穴の後側の開口にホースを一本取り付けたものでも良い。この場合、ホースの開口口を周方向に複数分割して、ホースを長さ方向に切り裂けば、図10に示すような尾状体にすることができる。

次に、網目状の外表面を有する第6実施例のルアーを図12に基づいて説明する。

図12に示すルアー120は、ルアーの上下左右の各外形線を金属製の枠組み121～124で形成し、この枠組み121～124に所要の強度を備えた金属線材125をネット状に組んでルアーの外形を形成したものである。このルアーのライン取付部126はルアー120の前端に設けてあり、フック取付部127、128は、ルアーの下側の枠組み123と後端に設けてある。

このルアー120は水の抵抗が少ないので、ルアー120を操作する釣り人の負担を軽減するとともに、ルアー120の内部に不規則に水が流れるので、ルアー120に不規則な動きをさせることが容易である。なお、このルアーは同形状のものを合成樹脂で作成してもよいし、また、金属製の枠組みに紐をネット状に組んだものでもよい。

次に、本発明の第7実施例に係るルアー130を説明する。

このルアー130は、図13(a)に示すように、ルアー本体の内部に前方が開口し後方が塞がれた空洞部137を有する有底パイプ形状のルアー本体131の内部下面に錘132を取り付け、ルアー本体131の外周において開口部133の上部にライン取付部135を設け、下部にフック136を取り付けたものである。このルアー130は進行方向前方の開口部133からルアー本体131の内部の空洞部137に水が入り、その水流によりルアー本体131が振れ動くようになっている。なお、図中の134は、ルアー本体131の後方の開口を塞いでいる壁面である。

図13(b)に示すルアー140は、第7実施例に係るルアーの変形例であり、ルアー本体141内部の空洞部147をルアー本体141の後方に至るにつれて広くしたものである。このルアー140は、ルアー本体141前方の開口部143から空洞部147に入った水が空洞部147内で乱流になるから、ルアー130よりも大きく振れ動くようになる。なお、図13(b)中、142は錘、145はライン取付部、146はフックである。

次に、図14(a)に示すルアー130aは、第7実施例に係るルアー130のルアー本体131の外周面に空洞部137に貫通した小径の通水穴138を複数形成したものである。

このルアー130aは、ルアー本体131の空洞部137に取り込まれた水が小径の通水穴138を通して外部に排出されるので、ルアー130に比べるとルアー本体131の抵抗が小さくなる。また、水が小径の通水穴138を通して外部に排出されるときに乱流になるので、ルアー本体131は緩やかに大きく振れ動くようになる。

また、図14(b)に示すルアー140aは、第7実施例の変形例に係るルアー140のルアー本体141の外周面に空洞部147に貫通した小径の通水穴148を複数形成したものである。このルアー140aは、空洞部147に取り込まれた水が小径の通水穴148を通して外部に排出されるので、ルアー140に比べるとルアー本体141の抵抗が少なくなる。また、水が小径の通水穴148を通して外部に排出されるときに乱流になるから、ルアー本体141は緩やかに大きく振れ動くようになる。

次に、図15(a)に示すルアー130bは、第7実施例に係るルアー130のルアー本体131の外周面に空洞部137に貫通した小径の通水穴138を複数形成し、さらにルアー本体131の後方に空洞部137に連通するように開口部139を形成したものであって、ルアー本体131の小径の通水穴138と後方の開口部139に第1栓部材151と第2栓部材152をそれぞれ着脱可能に取り付けたものである。このルアー130bは、例えば、ルアー本体131の小径の通水穴138及び後方の開口部139を全て開口した状態では、ルアー本体131の抵抗が最も少ない状態となり、ルアー本体131は水が小径の通水穴138を通して外部に排出されるときに生じる乱流により、緩やかに振れ動くものになる。また、ルアー本体131の後方の開口部139を第2栓部材152で塞いで小径の通水穴138を全て開口すれば、ルアー130aと同じ状態のものになる。さらに、第1栓部材151で小径の通水穴138を塞ぐ数を多くすればするほど、ルアー本体131の抵抗が大きくなり、ルアー本体131の振れが激しくなる。すなわち、このルアー130bは、釣り人が状況に応じてルアー本体131の小径の通水穴138や後方の開口部139を第1栓部材151や第2栓部材152で塞ぐことにより、ルアー本体131の動きを変えることができるようになっている。

また、大型のルアーであれば、ルアー本体131の後方の開口部139を第2栓部材で塞げば空洞部137にアミエビなどの撒き餌を入れることができ、ルアーを引航したときに小径の通水穴138から撒き餌がこぼれ落ち集魚効果が得られるようになる。

図15(b)(c)に示す第2栓部材151aは、小径の通水穴148に挿通可能な棒状の抜け止め部材153の中央部に釣り糸154の一端を結び、この釣り糸154の他端に栓本体155を結んだものである。この第2栓部材151aは、図15(b)に示すように、ルアー本体141に形成した小径の通水穴148に、ルアー本体141の外側からルアー本体141の内部に棒状の抜け止め部材153を挿通させて、小径の通水穴148に栓本体155を差し込んで取り付ける。これにより、ルアーに魚がヒットした場合などの衝撃で栓本体155が小径の通水穴148からはずれても、小径の通水穴148の内側に抜け止め部材153が引っ掛かり、栓本体155が無くなることがない。

また、図16(a)(b)に示すように、ルアーの針156は、小径の通水穴148に挿通可能な棒状の抜け止め部材157の中央部に釣り糸158の一端を結び、この釣り糸158の他端に針本体159を結んだものである。この針156は、図15(b)に示すように、ルアー本体141に形成した小径の通水穴148に、ルアー本体141の外側からルアー本体141の内部に棒状の抜け止め部材157を挿通させて取り付ける。針本体159は小径の通水穴148からルアー本体141の外部に垂れ下がった釣り糸158に結ばれた状態になる。この針156によれば、ルアー本体141の任意の小径の通水穴148に任意数の針156を取り付けることができる。

また、図17(a)に示すルアー130cは、第7実施例に係るルアー130のルアー本体131の外周面に空洞部137に貫通した小径の通水穴138を複数形成したルアー130aに、ルアー本体131の外周面に摺動可能な外郭体160を取り付け、この外郭体160にルアー本体131に形成した小径の通水穴138に対応する位置に略同じ径の通水穴161を形成したものである。このルアー130bは、釣り人が状況に応じて外郭体160をルアー本体131に対して周方向に摺動させることにより、ルアー本体131の小径の通水穴138の開口の程度を調節してルアー本体131の動きを変えられるようになっている。なお、図中の162、163は外郭体160をルアー本体131の前後方向に対して拘束するために、ルアー本体131に取り付けた突起である。上記の外郭体160の構成は、前後に貫通した貫通穴を有し、外周面に小径の通水穴を複数形成したルアー本体に同様に適用することができる。

また、図17(b)に示すルアー140cは、ルアー130cと同様に、第7実施例の変形例に係るルアー140aに外郭体165を取り付け、この外郭体165にルアー本体141に

形成した小径の通水穴148に対応する位置に略同じ径の通水穴166を形成したものである。このルアー140cも、釣り人が状況に応じてルアー本体141と外郭体165を相対的に摺動させることにより、ルアー本体141の小径の通水穴148の開口の程度を調節してルアー本体141の動きを変えることができるようになっている。なお、図中の167、168は外郭体165をルアー本体141の前後方向に対して拘束するために、ルアー本体141に取り付けた突起である。

次に、本発明の第8実施例に係るルアー170を図18(a)(b)(c)に基づいて説明する。

図18(a)に示すルアー170は、パイプ形状のルアー本体171の内部に貫通穴172を形成し、この貫通穴172の内部に係合部として係合ピン173をルアー本体171の一方の側面から他方の側面に貫通させて取り付け、この係合ピン173に誘魚手段としてのスカート174を取り付けたものである。このルアー170はルアー本体171内部を通る水流によりスカート174が振れ動いて魚を誘うことができる。なお、図中の175はライン取付部であり、176はフックである。一般に、ルアーは天候、潮流の速さ等により魚にアピールする色が日々異なる。このため、このルアー170は、色や形状が異なるスカート174をいくつか用意しておき、釣り人が場所や天候の状況に応じてスカート174を交換して使用するようにすれば、その日に合った誘魚効果が得られ釣果の向上が期待できる。

この係合ピン173には、例えば図18(b)に示すように、抜け止め用の頭部177と、頭部に立設したピン軸178と、ピン軸178の先端にピン軸178の軸線方向から軸線に直交する方向に90°回転するように設けたピン止め部材179で構成した係合ピン173aを採用することができる。この場合、ルアー本体171には、ピン軸178を挿通させる一方の側面と他方の側面にそれぞれ穴を開けておく。この係合ピン173aは、ピン止め部材179をピン軸178の軸線方向に向けた状態で、ルアー本体171に開けた穴に一方の側面からピン軸178をルアー本体171に刺し入れ、ルアー本体171の他方の側面から抜け出たピン止め部材179をピン軸178の軸線に対して直角に回転させてルアー本体171に取り付ける。

また、ピン止め部材179の一端を鋭く尖らせることにより、図18(c)に示すように、ルアー本体171に本物の魚を頭部から差し込んで、係合ピン173aを突き刺し

てルアー本体171に取り付けることもできる。このように本物の魚を取り付けたものは、水流により魚が振れ動き、太刀魚釣りやアオリイカ釣り用のルアーとして好適である。

なお、誘魚手段は上記のものに限定されず、スカートその他、スピナーなども適用することができる。また誘魚手段を取り付ける係合部は、上記の形態に限定されず取り付けようとする誘魚手段に応じて種々の形態のものを採用することができる。

次に、本発明の第9実施例に係るルアーを説明する。

このルアー180は、図19に示すように、パイプ形状のルアー本体181の内部に貫通穴182を形成し、ルアー本体181の外周面に貫通穴182に貫通する小径の穴183を複数形成し、ルアー本体181の前方の開口部に雌ねじ184を形成し、後方の開口部に雄ねじ185を形成したものである。このルアー180は、複数のルアー本体181を前方の開口部に形成した雌ねじ184と後方の開口部に形成した雄ねじ185を結合させることにより連結することができるようになっている。このルアー180によれば、釣り人が対象とする魚に応じて連結するルアー本体181の数を変えることにより、ルアーの長さを変えて使用することができる。なお、図中の186はライン取付部、187はフックである。

また、図20(a)に示すように、前方に向けて拡径したラッパ形状で後端に雄ねじ188が形成された吸水部材189と、後方に向けて拡径したラッパ形状で前端に雌ねじ190が形成された排水部材191を、それぞれルアー本体181の前方の開口部に形成した雌ねじ184、及び、後方の開口部に形成した雄ねじ185に取り付けるようにしても良い。このルアー180によれば、例えば、図20(b)(c)に示すような異なる形状の吸水部材189aと排水部材191aを用意しておき、釣り人が適当な形状の吸水部材と排水部材を選択してルアー本体181に取り付けることにより、状況に応じてルアーの動きを変えて使用することができるようになる。

また、ルアー本体同士の連結構造は、図21に示すように、2つのルアー本体193、194を少し間を開けて直列に並べ、2つのルアー本体の間に一方の側面と他方の側面にそれぞれ目板195、196を配設し、ルアー本体193、194、目板195、196がそれぞれ重なるところに穴を開け、目板195、ルアー本体193及び目板196にピ

ン197を挿通するとともに、目板195、ルアー本体194及び目板196にピン198を挿通して2つのルアーを揺動自在に連結するようにしてもよい。この連結構造によれば、ピン197、198を縦に挿通させれば、2つのルアー本体193、194は相対的に左右に振れ動くようになり、ピン197、198を横に挿通させれば、2つのルアー本体193、194は相対的に上下に振れ動くようになる。このルアーは、後側のルアー本体194が前側のルアー本体193の貫通穴を通り抜けた水流を受けて、不規則に振れ動くようになる。なお、ルアー本体の連結構造は、上記の形態に限定されない。

このような連結構造は、ルアー本体と吸水部材との連結構造、又は、ルアー本体と排水部材との連結構造に適用することができる。

次に、本発明の第10実施例に係るルアー200は、図22に示すように、布を管状に縫い合わせて貫通穴201を形成するとともに魚の外形形状を模した布製のルアー本体202と、ルアー本体202に内装した筒体203とを備えている。筒体203は前方に向けて拡張しており、外周面に複数の排水穴204が形成されている。筒体203の前方の拡張部206はルアー本体202の前方の開口部205に装着してあり、筒体203の後方の開口部207はルアー本体202の内周下面に開けた穴208に装着してある。なお、図中の209はライン取付部であり、210はフックである。

このルアー200は、ルアー本体202の前方の開口部205に装着した筒体203の前方の拡張部206から筒体203内に水が入るようになっている。筒体203内に入ってきた水の一部は筒体203の排水穴204からルアー本体202の貫通穴201内に排出され、ルアー本体202の後方の開口部211から排出される。ルアー本体202の貫通穴201内に排出された水は、布製のルアー本体202を膨らませるとともに、ルアー本体202の内部を不規則に通り返してルアー本体202を不規則に振れ動かすように作用する。また、このルアー200は、筒体203内に入り筒体203の後方の開口部207から排出される水流により、ルアー本体202の後部が振れ動くようになっている。

なお、筒体203は、上記の形態に限定されず、例えば、筒体203の後方を上方に湾曲させて後方の開口部207をルアー本体202の内周上面に形成した穴に装着するようにしてもよいし、また筒体203の後方を側方に湾曲させて後方の開口部207をルアー本体202の内周側面に形成した穴に装着するようにしてもよい。

以上、本発明の実施例に係るルアーを説明したが、本発明のルアーは上記のも

のに限定されるものではない。

例えば、ルアーの前後方向に貫通して設ける貫通穴は複数設けても良い。貫通穴の前部の開口、後部の開口を設ける位置は、ルアー本体の様々な場所を採択することができる。また、ラインを結ぶ位置などは、適当に変更することができる。

また、ルアーの材質は種々採択でき、例えば、第1実施例のルアー（図1参照）において、鉛や錫板等の軟らかい金属板を管状に丸めて内部に貫通穴を形成すると共に、外周面にラインを結ぶライン取付部とフックを取り付けるフック取付部を形成したものでも良い。また、竹材やガラス材などでルアー本体を形成してもよい。

また、貫通穴の形状は、丸型に限定されず、四角形、六角形などの種々の形状を採用できる。また、ルアー本体はパイプ形状の部材を複数束ねたものとしても良い。

請求の範囲

1. ルアー本体に前後に貫通した貫通穴を有し、引航時にルアー本体の前側の開口から貫通穴に水を取り込みルアー本体の後側の開口から水を排出するものであり、貫通穴を通り抜ける水流により不規則な動きをすることを特徴とするルアー。
2. ルアー本体に形成した貫通穴の前側がルアー本体の前方に向けて開口し、貫通穴の後側がルアー本体の後方に向けて開口したことを特徴とする請求の範囲 1 に記載のルアー。
3. ルアー本体に形成した貫通穴の前側がルアー本体の前方に向けて開口し、貫通穴の後側がルアー本体の後部上方に向けて開口したことを特徴とする請求の範囲 1 に記載のルアー。
4. ルアー本体に形成した貫通穴の前側がルアー本体の前方に向けて開口し、貫通穴の後側がルアー本体の後部下方に向けて開口したことを特徴とする請求の範囲 1 に記載のルアー。
5. ルアー本体に形成した貫通穴の前側がルアー本体の前方に向けて開口し、貫通穴の後側がルアー本体の後部側方に向けて開口したことを特徴とする請求の範囲 1 に記載のルアー。
6. ルアー本体に形成した貫通穴に潜行板を設けたことを特徴とする請求の範囲 1 に記載のルアー。
7. ルアー本体に形成した貫通穴に水流によって回転するスクリューを設けたことを特徴とする請求の範囲 1 に記載のルアー。
8. ルアー本体に形成した貫通穴の前側の開口に、前方に向けて拡張したラッパ形状の吸水部材を取り付けたことを特徴とする請求の範囲 1 乃至 7 に記載のルアー。
9. ルアー本体に形成した貫通穴の後側の開口に、排水部材を取り付けたことを特徴とする請求の範囲 1 乃至 7 に記載のルアー。
10. ルアー本体に形成した貫通穴の後側の開口に尾状体を取り付けたことを特徴とする請求の範囲 1 乃至 7 に記載のルアー。
11. 前記尾状体がルアー本体に形成した貫通穴の後側の開口に 1 又は複数取

り付けたホースであることを特徴とする請求の範囲 10 に記載のルアー。

12. ルアー本体を、木材、ガラス、合成樹脂又は金属の何れかで、或いは、これらを複合して作成した一体型のルアーとし、ルアー本体に前後方向に貫通穴を形成したことを特徴とする請求の範囲 1 乃至 7 に記載のルアー。

13. ルアー本体を、シートを管状に繋ぎ合わせてその前側の開口に沿ってリング部材を装着したことを特徴とする請求の範囲 1 乃至 7 に記載のルアー。

14. ルアー本体の内部にフックを内蔵したことを特徴とする請求の範囲 13 に記載のルアー。

15. ルアー本体の外形をネットで形成したことを特徴とするルアー。

16. ルアー本体の外周面に変形自在な金属板を取り付けたことを特徴とする請求の範囲 1 乃至 7、又は、15 に記載のルアー。

17. ルアー本体の内部に前方が開口し後方が塞がれた空洞部を有し、前方の開口部から空洞部に取り込まれた水の水流により不規則に動くようにしたことを特徴とするルアー。

18. ルアー本体の外周面の複数の位置に通水穴を形成したことを特徴とする請求の範囲 17 に記載のルアー。

19. ルアー本体の後方に空洞部に連通するように形成した開口部と、前記開口部に着脱可能な第 1 栓部材とを有することを特徴とする請求の範囲 17 に記載のルアー。

20. ルアー本体の外周面の複数の位置に形成した通水穴に着脱可能な第 2 栓部材を有することを特徴とする請求の範囲 18 に記載のルアー。

21. 第 2 栓部材が、通水穴に通すことが可能な棒状の抜け止め部材の中央部に釣り糸の一端を結び、釣り糸の他端に栓本体を結んだものであることを特徴とする請求の範囲 20 に記載のルアー。

22. 通水穴に通すことが可能な棒状の抜け止め部材の中央部に釣り糸の一端を結び、釣り糸の他端に釣針を結んだ 1 又は複数の針部材を備えたことを特徴とする請求の範囲 18 に記載のルアー。

23. ルアー本体の内部に前方が開口し後方が塞がれた空洞部、又は、ルアー本体に前後に貫通した貫通穴を有し、ルアー本体の外周面の複数の位置に前記空

洞部又は貫通穴に貫通するように形成した第1通水穴と、ルアー本体の外周に周方向に摺動可能に配設した外郭体と、ルアー本体に形成した第1通水穴に対応させて外郭体に形成した第2通水穴とを備えたことを特徴とするルアー。

24. ルアー本体に前後に貫通した貫通穴を形成し、貫通穴の内部に設けた係合部に誘魚手段を装着したことを特徴とするルアー。

25. 前後に貫通した貫通穴を有するルアー本体の一方の開口部に雌ねじ又は雄ねじを設け、かつ、他方の開口部に雄ねじ又は雌ねじを設けたことを特徴とするルアー。

26. 前後に貫通した貫通穴を有する2以上のルアー本体を直列に配設し、前側のルアー本体に対して後側のルアー本体が振れ動くように連結したことを特徴とするルアー。

27. ルアー本体の前後に貫通した貫通穴の内部に、周面に複数の排水口を有する筒体を收容するとともに、前記筒体の前方の開口をルアー本体の貫通穴の前方の開口に向けて拡張させて取り付け、かつ、前記筒体の後方の開口をルアー本体の周面に貫通させた穴に取り付けたことを特徴とするルアー。

1/14

Fig. 1

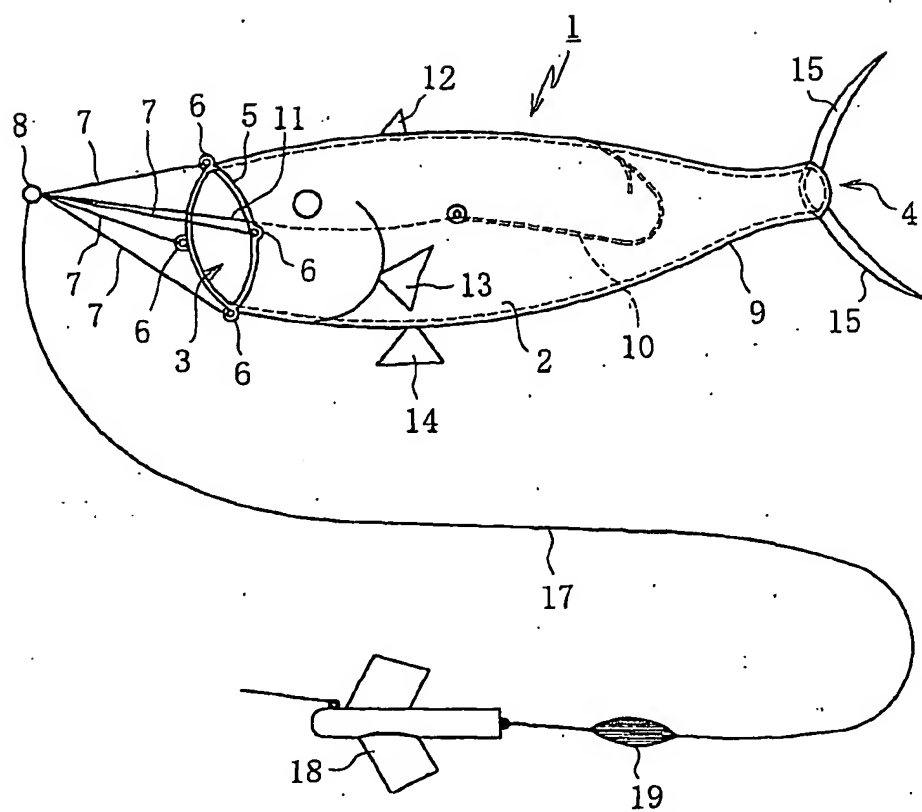
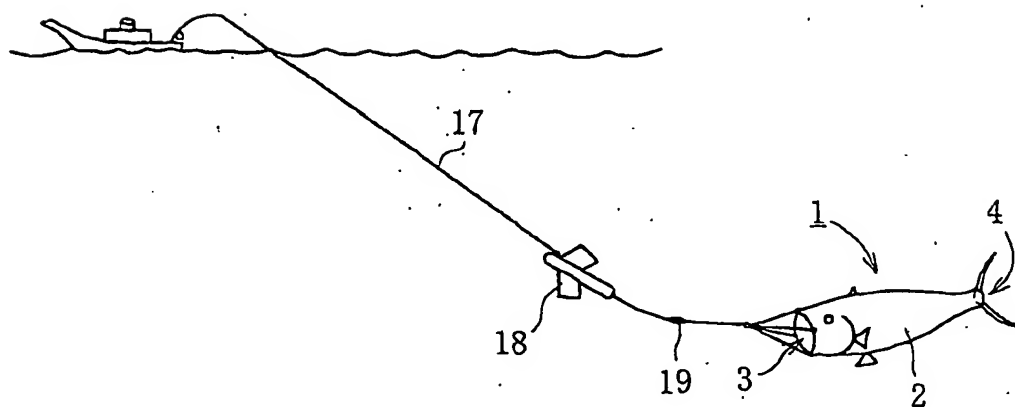


Fig. 2



2/14

Fig. 3a

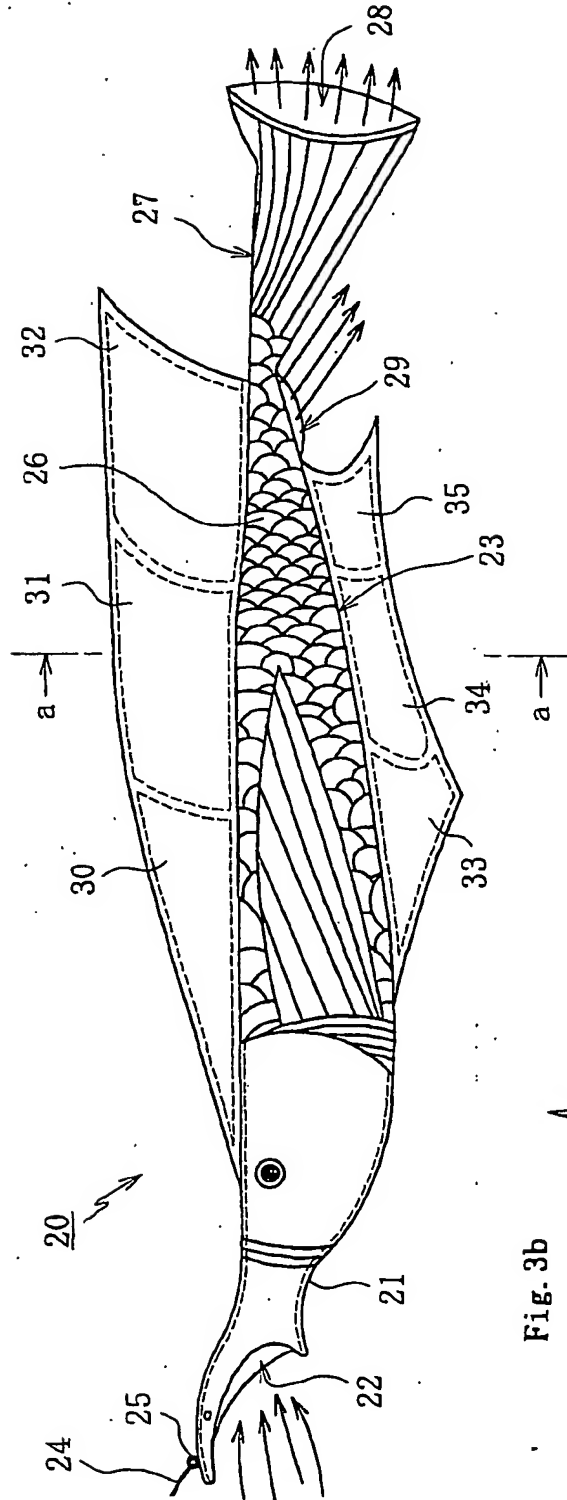
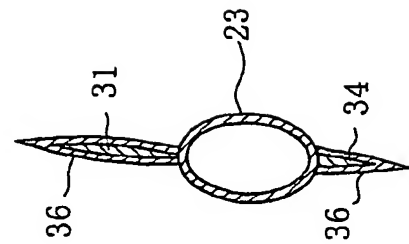


Fig. 3b



3/14

Fig. 4

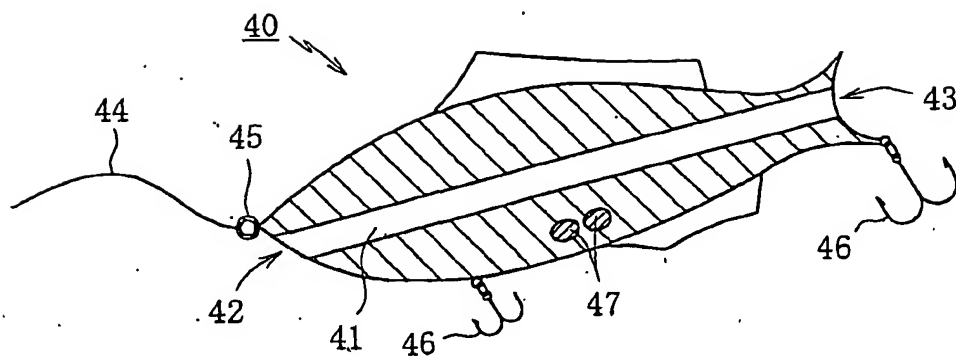


Fig. 5

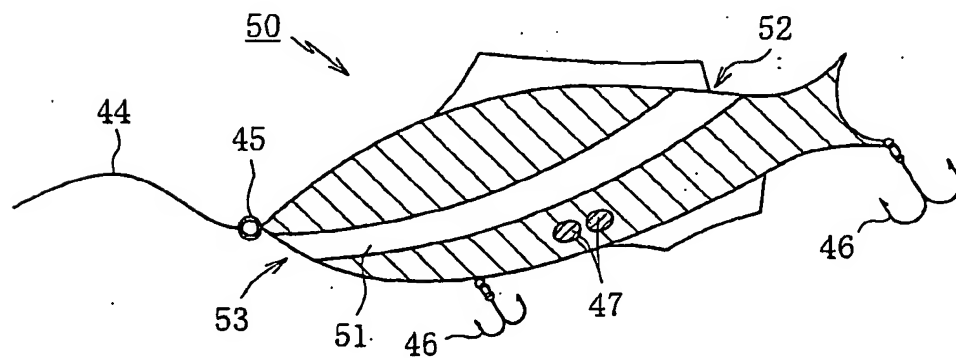
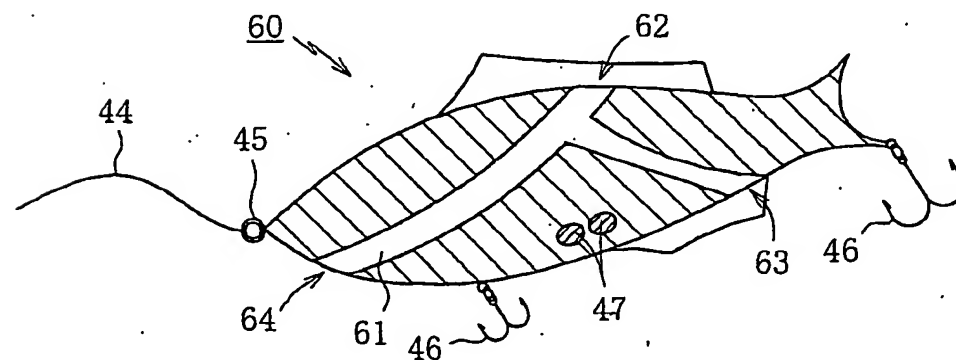


Fig. 6



4/14

Fig. 7

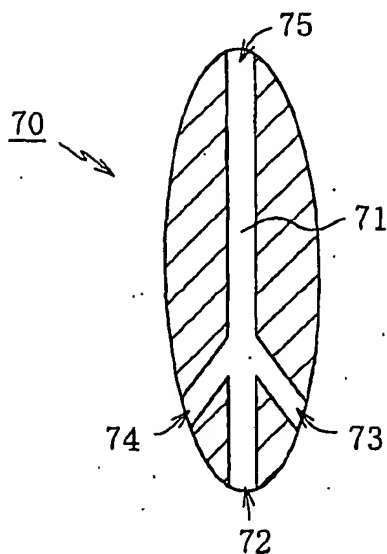


Fig. 8

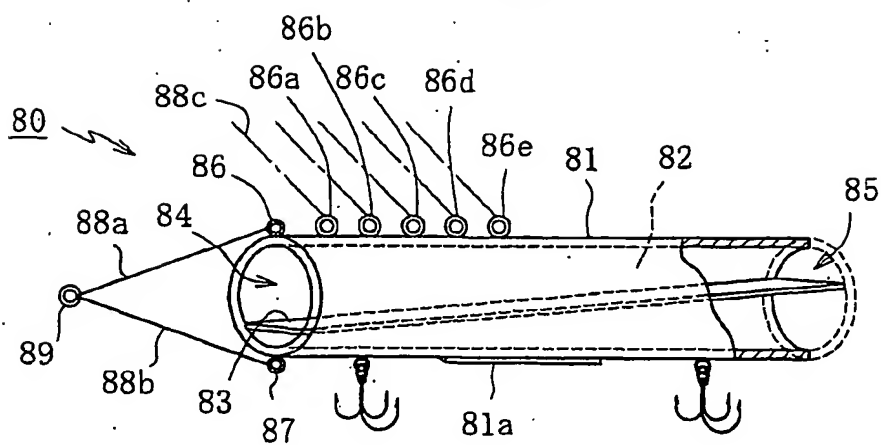
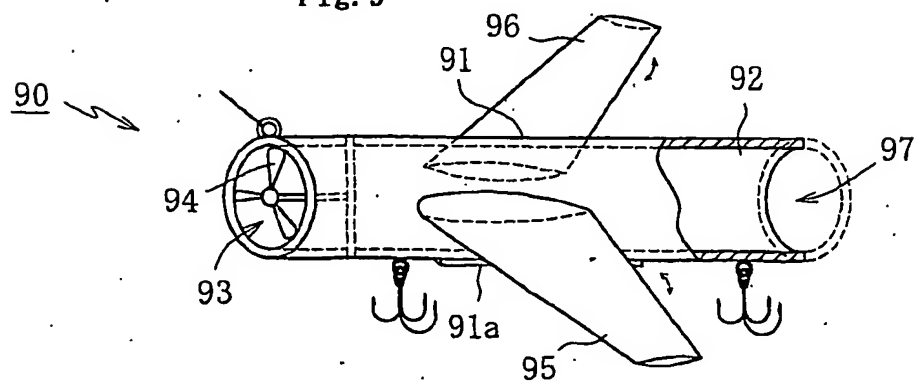


Fig. 9



5/14

Fig. 10

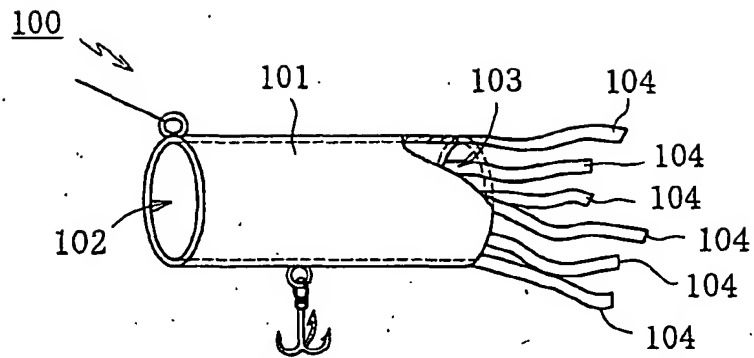


Fig. 11

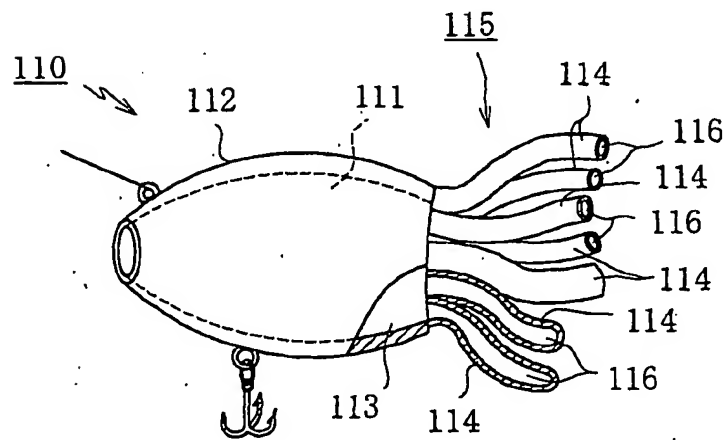
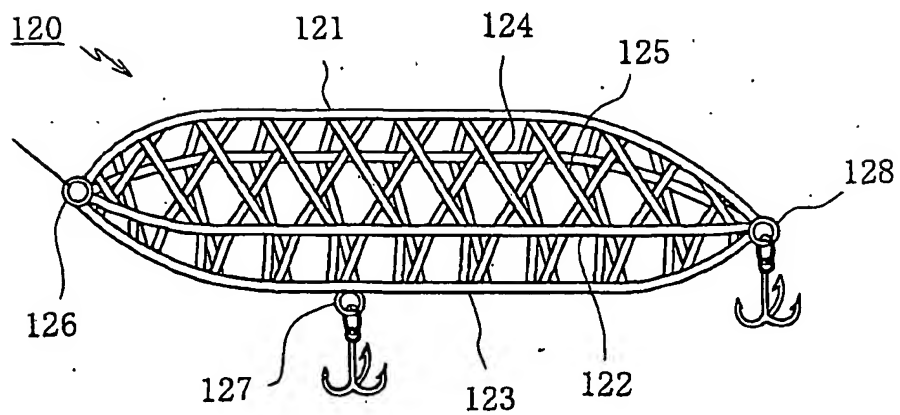


Fig. 12



6/14

Fig. 13a

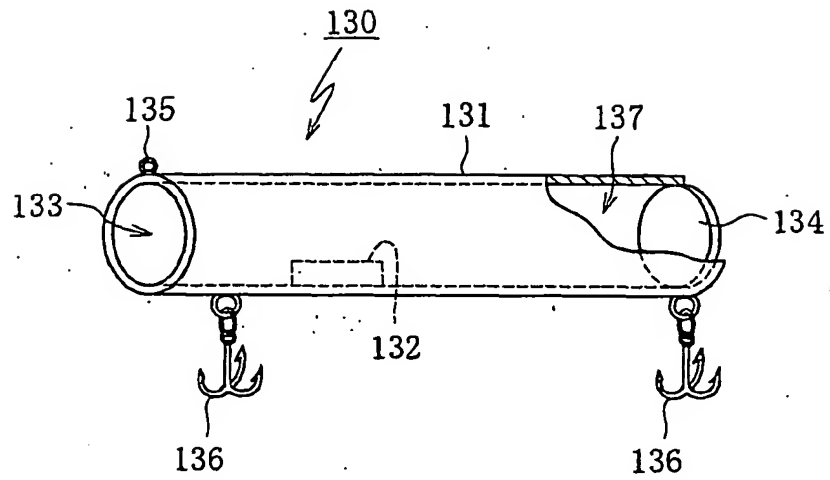
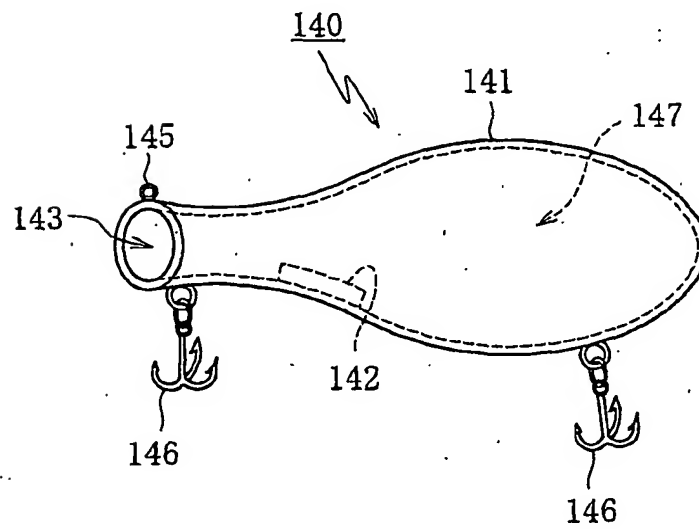


Fig. 13b



7/14

Fig. 14a

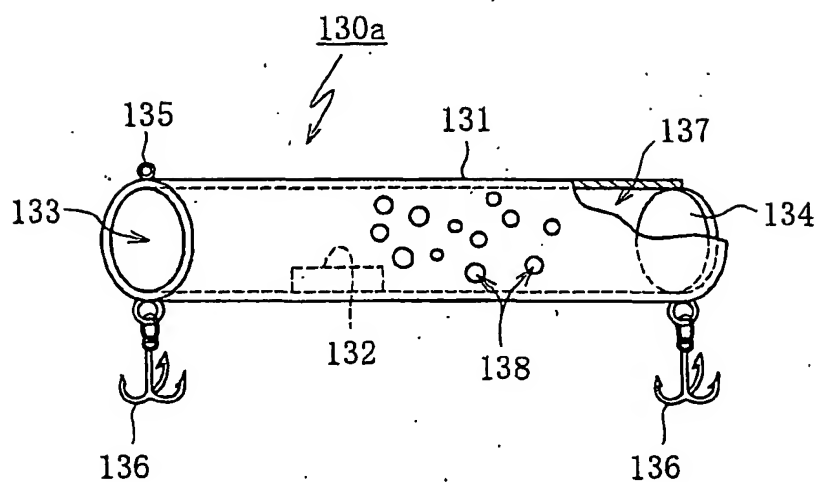
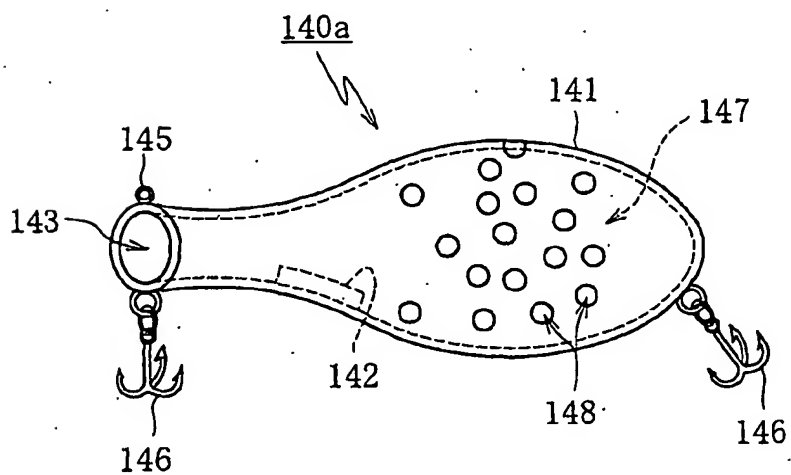


Fig. 14b



8/14

Fig. 15a

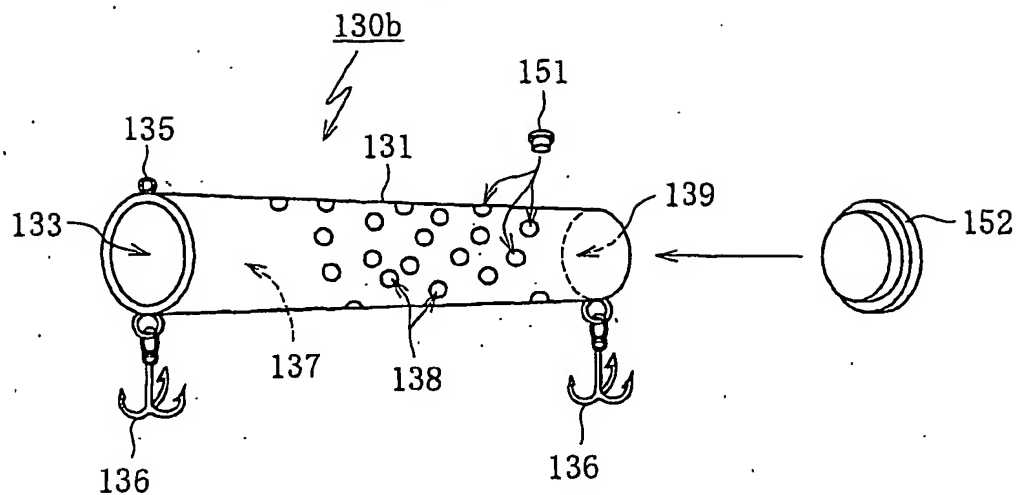


Fig. 15b

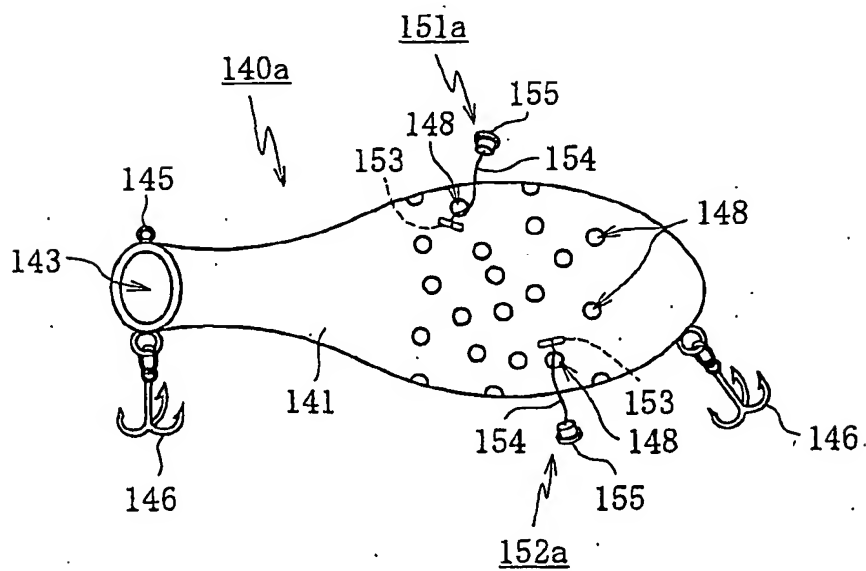
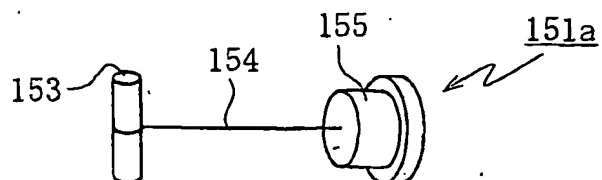


Fig. 15c



9/14

Fig. 16a

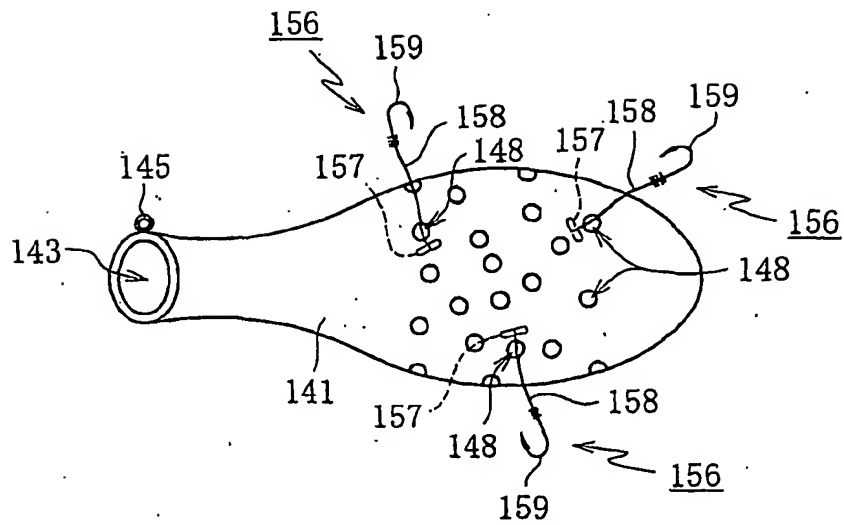
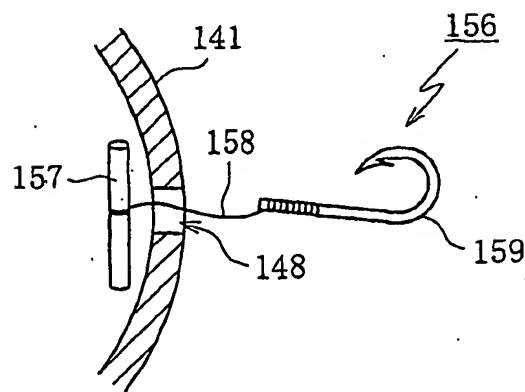


Fig. 16b



10/14

Fig. 17a

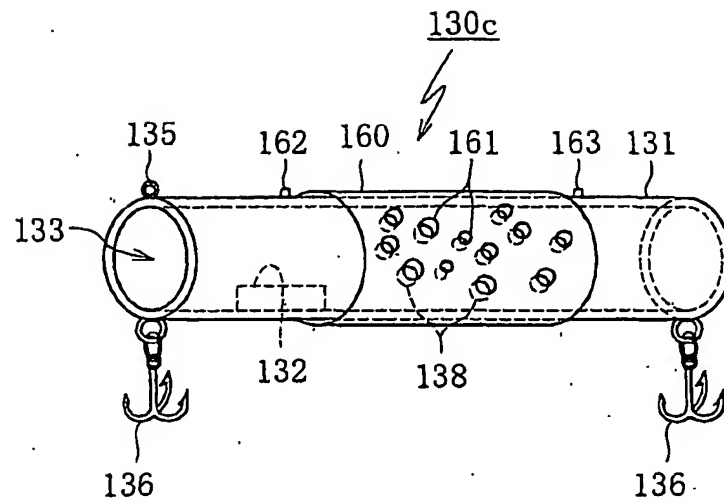
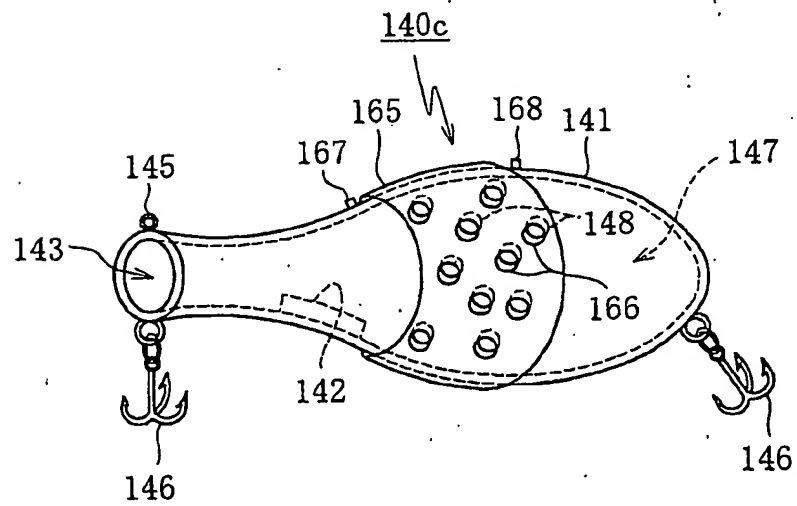


Fig. 17b



11/14

Fig. 18a

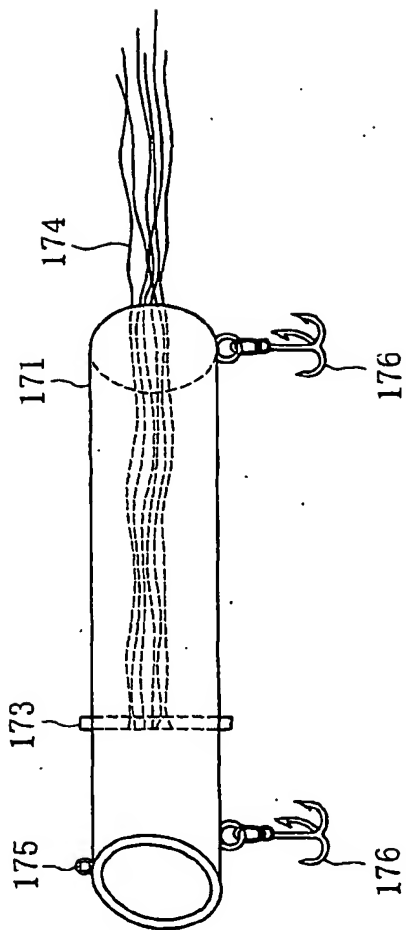


Fig. 18c

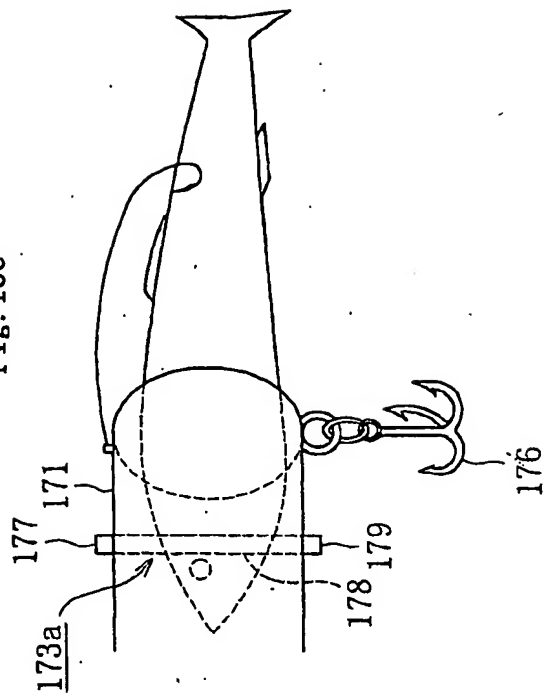
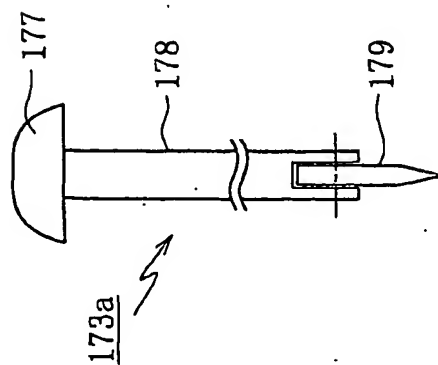


Fig. 18b



12/14

Fig. 19

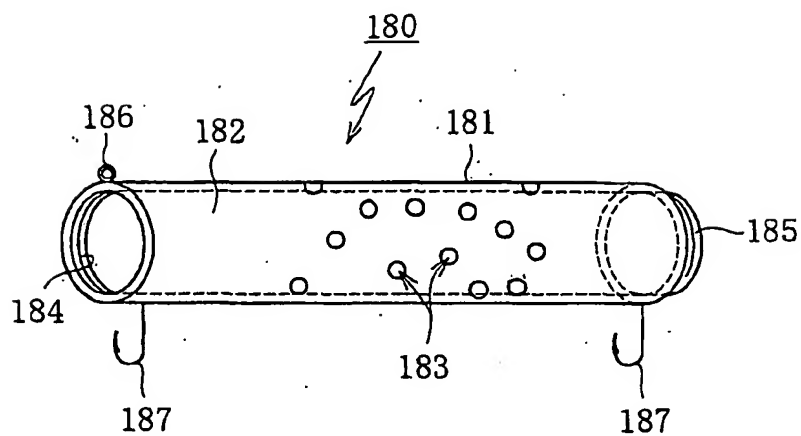


Fig. 20a

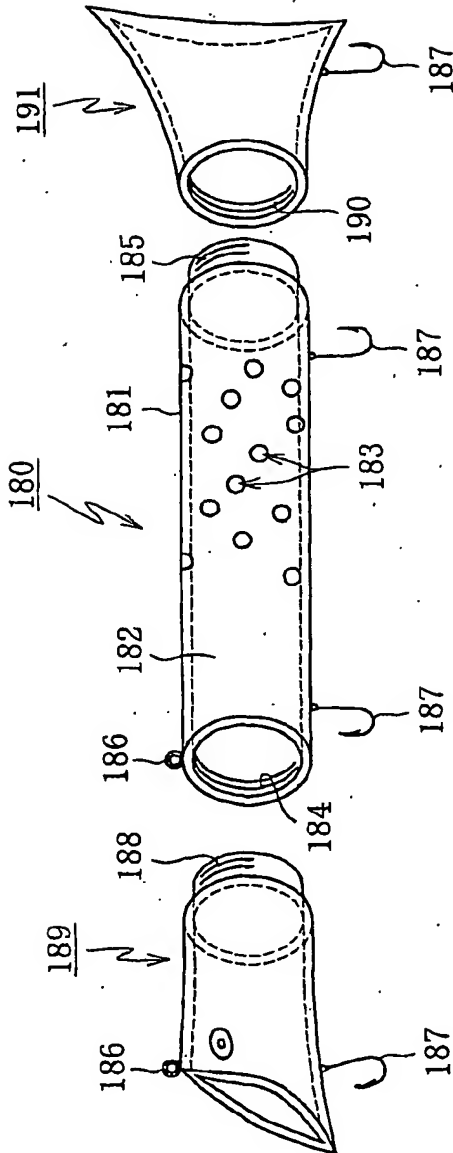


Fig. 20b

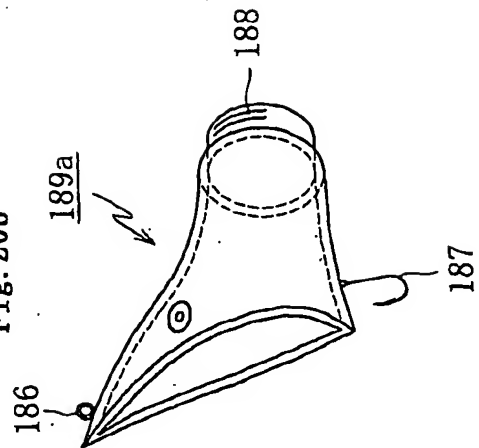
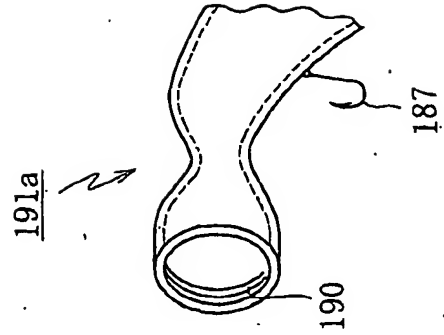


Fig. 20c



14/14

Fig. 21

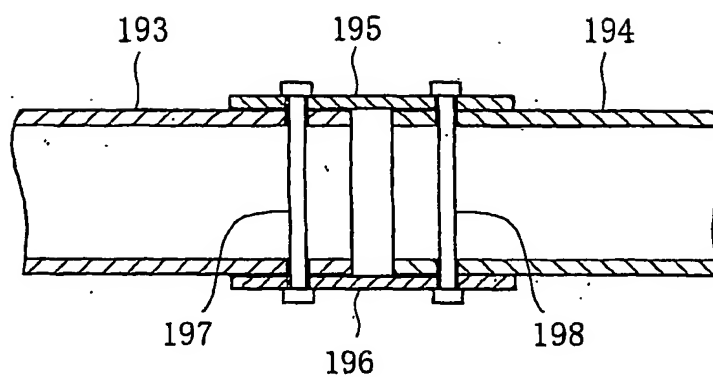
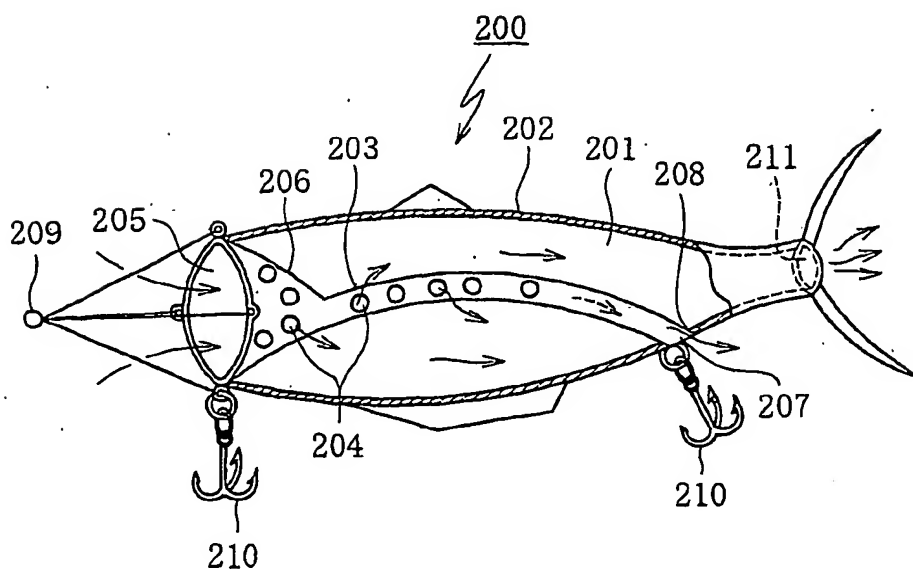


Fig. 22



INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP01/07820

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER
Int.Cl⁷ A01K 85/00

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)
Int.Cl⁷ A01K 85/00-85/08Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched
Jitsuyo Shinan Koho 1922-1996 Toroku Jitsuyo Shinan Koho 1994-2001
Kokai Jitsuyo Shinan Koho 1971-2001 Jitsuyo Shinan Toroku Koho 1996-2001

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
Y	JP 2528155 Y2 (Daiwa Seiko K.K.), 05 March, 1997 (05.03.97), Full text; Figs. 1 to 3 (Family: none)	1-5, 12
Y	Microfilm of the specification and drawings annexed to the request of Japanese Utility Model Application No.042924/1978 (Laid-open No.145688/1979) (Jinzo KISHITA), 09 October, 1979 (09.10.79), Full text; Figs. 1 to 3 (Family: none)	1-5, 12, 24
Y	JP 8-51893 A (Tatsu NNOGUCHI), 27 February, 1996 (27.02.96), Full text; Figs. 1 to 5 (Family: none)	1-5, 10, 12
Y	JP 56-11408 B2 (Agency of Industrial Science and Technology), 14 March, 1981 (14.03.81), Full text; Figs. 1 to 3 (Family: none)	3-5

☒ Further documents are listed in the continuation of Box C.
 ☐ See patent family annex.

* Special categories of cited documents:	"T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention
"A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance	"X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone
"E" earlier document but published on or after the international filing date	"Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art
"L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)	"&" document member of the same patent family
"O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means	
"P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed	

Date of the actual completion of the international search
14 December, 2001 (14.12.01)Date of mailing of the international search report
25 December, 2001 (25.12.01)Name and mailing address of the ISA/
Japanese Patent Office

Authorized officer

Facsimile No. 3/14/05, EAST Version: 2.0.1.4

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP01/07820

C (Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
Y	JP 9-205938 A (Megabasu K.K.), 12 August, 1997 (12.08.97), Full text; Figs. 1 to 2 (Family: none)	3-5
P,X	JP 2001-78 A (Daiwa Seiko K.K.), 09 January, 2001 (09.01.01), Full text; Figs. 1 to 6 (Family: none)	7
Y	JP 49-18878 Y1 (Eichi OOMURA), 20 May, 1974 (20.05.74), Full text; Figs. 1 to 5 (Family: none)	7
Y	Microfilm of the specification and drawings annexed to the request of Japanese Utility Model Application No.128126/1976 (Laid-open No.45290/1978) (Keiji KOUNO), 18 April, 1978 (18.04.78), Full text; Figs. 1 to 4 (Family: none)	13,14
A	JP 9-9823 A (Katsuyuki SOMA), 14 January, 1997 (14.01.97), Full text; Figs. 1 to 19 (Family: none)	1-27

A. 発明の属する分野の分類 (国際特許分類 (IPC))

Int. Cl⁷ A01K 85/00

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料 (国際特許分類 (IPC))

Int. Cl⁷ A01K 85/00-85/08

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報 1922-1996年

日本国公開実用新案公報 1971-2001年

日本国登録実用新案公報 1994-2001年

日本国実用新案登録公報 1996-2001年

国際調査で使用した電子データベース (データベースの名称、調査に使用した用語)

C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
Y	JP 2528155 Y2 (ダイワ精工株式会社) 5. 3月. 1997 (05. 03. 97) 全文, 第1-3図 (ファミリーなし)	1-5, 12
Y	日本国実用新案登録出願53-042924号 (日本国実用新案登録出願公開54-145688号) の願書に添付した明細書及び図面の内容を撮影したマイクロフィルム (岸他人蔵) 9. 10月. 1979 (09. 10. 79) 全文, 第1-3図 (ファミリーなし)	1-5, 12, 24

☒ C欄の続きにも文献が列挙されている。☐ パテントファミリーに関する別紙を参照。

* 引用文献のカテゴリー

「A」 特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの

「E」 国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの

「L」 優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献 (理由を付す)

「O」 口頭による開示、使用、展示等に言及する文献

「P」 国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

の日の後に公表された文献

「T」 国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの

「X」 特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの

「Y」 特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの

「&」 同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日

14. 12. 01

国際調査報告の発送日

25.12.01

国際調査機関の名称及びあて先

日本国特許庁 (ISA/JP)

郵便番号100-8915

東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官 (権限のある職員)

山田 昭次

2B

8201

電話番号 03-3581-1101 内線 3237

C (続き) . 関連すると認められる文献		
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
Y	JP 8-51893 A (野口達) 27. 2月. 1996 (27. 02. 96) 全文, 第1-5図 (ファミリーなし)	1-5, 10, 12
Y	JP 56-11408 B2 (工業技術院長) 14. 3月. 1981 (14. 03. 81) 全文, 第1-3図 (ファミリーなし)	3-5
Y	JP 9-205938 A (メガバス株式会社) 12. 8月. 1997 (12. 08. 97) 全文, 第1-2図 (ファミリーなし)	3-5
P, X	JP 2001-78 A (ダイワ精工株式会社) 9. 1月. 2001 (09. 01. 01) 全文, 第1-6図 (ファミリーなし)	7
Y	JP 49-18878 Y1 (大村栄一) 20. 5月. 1974 (20. 05. 74) 全文, 第1-5図 (ファミリーなし)	7
Y	日本国実用新案登録出願51-128126号 (日本国実用新案登録出願公開53-45290号) の願書に添付した明細書及び図面 の内容を撮影したマイクロフィルム (広野敬治) 18. 4月. 1978 (18. 04. 78) 全文, 第1-4図 (ファミリーなし)	13, 14
A	JP 9-9823 A (相馬勝幸) 14. 1月. 1997 (14. 01. 97) 全文, 第1-19図 (ファミリーなし)	1-27

DERWENT-ACC-NO: 2002-281112

DERWENT-WEEK: 200370

COPYRIGHT 2005 DERWENT INFORMATION LTD

TITLE: Cloth-made lure in which water-passing
through-hole is formed to extend from opening in mouth of lure
body

INVENTOR: OGAWA, Y

PATENT-ASSIGNEE: OGAWA Y[OGAWI]

PRIORITY-DATA: 2000JP-0273783 (September 8, 2000)

PATENT-FAMILY:

PUB-NO	PUB-DATE	LANGUAGE
PAGES MAIN-IPC		
JP 2002524307 X	October 21, 2003	N/A
000 A01K 085/16		
WO 200219815 A1	March 14, 2002	J
041 A01K 085/00		
AU 200184497 A	March 22, 2002	N/A
000 A01K 085/00		

DESIGNATED-STATES: AE AG AL AM AT AU AZ BA BB BG BR BY BZ CA CH CN CO
CR CU CZ
DE DK DM DZ EC EE ES FI GB GD GE GH GM HR HU ID IL IN IS JP KE KG KP
KR KZ LC
LK LR LS LT LU LV MA MD MG MK MN MW MX MZ NO NZ PH PL PT RO RU SD SE
SG SI SK
SL TJ TM TR TT TZ UA UG US UZ VN YU ZA ZW AT BE CH CY DE DK EA ES FI
FR GB GH
GM GR IE IT KE LS LU MC MW MZ NL OA PT SD SE SL SZ TR TZ UG ZW

APPLICATION-DATA:

PUB-NO	APPL-DESCRIPTOR	APPL-NO
APPL-DATE		
JP2002524307X	N/A	2001WO-JP07820
September 10, 2001		
JP2002524307X	N/A	2002JP-0524307
September 10, 2001		
JP2002524307X	Based on	WO 200219815
N/A		
WO 200219815A1	N/A	2001WO-JP07820
September 10, 2001		

AU 200184497A
September 10, 2001
AU 200184497A
N/A

N/A
Based on

2001AU-0084497
WO 200219815

INT-CL (IPC): A01K085/00, A01K085/01 , A01K085/10 , A01K085/16 ,
A01K085/18

ABSTRACTED-PUB-NO: WO 200219815A

BASIC-ABSTRACT:

NOVELTY - A lure (1) provided with a through-hole longitudinally penetrating through a lure body (2) to deliver an irregular movement by a simple operation. A cloth-made lure body (2) is formed by sewing up pieces of cloth into a tubular shape and by printing a fish-intimated pattern on the outer peripheral surface, and a water-passing through-hole is formed to extend from an opening (3) in the mouth of the lure body (2) to an opening (4) to the tail fin of the body (2), thereby providing a large, light lure having a small resistance because of water flowing through the through-hole and being not likely to easily float on the sea when used especially for trawling. A metal ring (5) may be attached along the opening (3) in the mouth of the body (2). In addition, the number of through-holes and the number, sizes and directions of openings (3, 4) at a through-hole may be changed freely.

USE - Cloth-made lure in which water-passing through-hole is formed to extend from opening in mouth of lure body.

DESCRIPTION OF DRAWING(S) - Lure 1

Lure body 2

Opening 3

Opening 4

Metal ring 5

CHOSEN-DRAWING: Dwg.1/22

TITLE-TERMS: CLOTH MADE LURE WATER PASS THROUGH HOLE FORMING EXTEND
OPEN MOUTH

LURE BODY

DERWENT-CLASS: P14

SECONDARY-ACC-NO:

Non-CPI Secondary Accession Numbers: N2002-219523